

和歌山県 資料提供

令和6年8月30日

知らないオドロキが色々々々



## 病虫害発生予報 第6号(9月予報) について

令和6年度病虫害発生予報 第6号(9月予報) を別添のとおり発表します。

(補足)

県農作物病虫害防除所では、植物防疫法に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報(発生予察情報)を提供しています。

「病虫害発生予報」は病虫害の発生予測及び防除情報を定期的に発表するもので、本県の場合は4～11月に月1回発表しています。

(連絡先)

担当課室	鳥獣害対策課	農作物病虫害防除所
担当者	岩倉	岡本晃久
電話	073-441-2905	0736-64-2300

# 病害虫発生予報 第6号（9月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

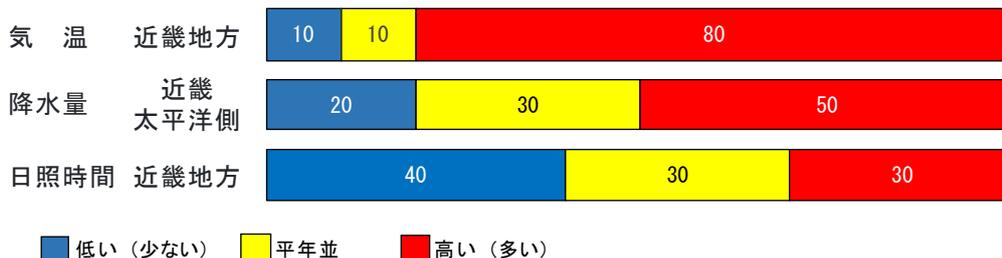
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	やや少	野菜・花 き全般	ミナミキイロアザミウマ	並
	紋枯病	やや少		ミカンキイロアザミウマ	並
	トビイロウンカ	並		シロイチモジヨトウ	並
	イチモンジセセリ	並		ハスモンヨトウ	やや多
	コブノメイガ	やや多	カンキツ	黒点病	並
	斑点米カメムシ類	やや多			かいよう病
				ミカンハダニ	やや多
				チャノキイロアザミウマ	並
ダイコン	コナガ	並	カキ	炭疽病	多
ハクサイ					
キャベツ				円星落葉病	並
野菜・花 き全般	アブラムシ類 ハダニ類	やや多 やや多		角斑落葉病	並
				フジコナカイガラムシ	少
			果樹全般	カメムシ類	多

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（08/24～09/23）

2024年08月22日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項		2週目は、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 08/24～09/23	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、近畿日本海側で平年並または高い確率ともに40%、近畿太平洋側で高い確率50%です。
1週目 08/24～08/30	気温	1週目は、高い確率60%です。
2週目 08/31～09/06	気温	2週目は、高い確率80%です。
3～4週目 09/07～09/20	気温	3～4週目は、高い確率80%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



# I. 水 稲

## 1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上旬の葉いもちの発生ほ場率は25%（平成34%）、発病株率は1.2%（平成7.6%）であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① いもち病に感受性が高い品種（「キヌヒカリ」等）の作付ほ場では今後の気象推移に注意する。

② 常発地では次作から、いもち病に感受性が高い品種の作付けを避ける。

## 2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上旬の発生ほ場率は4%（平成27%）、発病株率は0.3%（平成5.0%）であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 第3葉鞘以上の上位葉で発病すると減収などの被害に繋がる。病斑が上位葉鞘まで達している場合は早急に防除を実施する。また、病斑が上位葉鞘まで達していなくても、発病株が多い場合は防除を実施する。

② 発生が多いほ場では、次作の伝染源となる菌核の形成が多くなる。次作は密植にならないよう注意し、防除を徹底する。

## 3. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたり生息密度は、県北部の普通期栽培では0頭（平成0.3頭）、県中部の普通期栽培では0.1頭（平成2.8頭）であった。

② 予察灯による6月1日～8月20日の飛来数は、紀の川市4頭（平成6.1頭）、上富田町0頭（平成22.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① トビイロウンカの発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。

② 本種は増殖率が高いため、現在は低密度のほ場でも坪枯れ被害を引き起こす恐れがある。定期的に発生状況を確認し、1株あたり5頭以上の成虫・幼虫を確認したら、早急に薬剤防除を実施する。

③ 本種は株元に生息するので、薬液が株元に十分到達するように散布する。

## 4. イチモンジセセリ（イネツトムシ）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたりツトム数は、県北部の普通期栽培では0（平成0.1）、県中部の普通期栽培では0（平成0）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 8月下旬～9月上旬に蛹化し9月中旬以降に成虫となるため、防除の必要はない。

## 5. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたり被害葉数は、県北部の普通期栽培では1.1葉（平成0.3葉）、県中部の普通期栽培では3.3葉（平成1.8葉）であった。

② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱による8月1～15日の成虫誘殺数は、8頭（平成5.4頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 9月以降は被害葉率が高くても減収率は低い。また、次世代幼虫の出現がないため、防除の必要はない。

## 6. 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① すくい取り調査（捕虫網20回振り）による8月上旬の発生ほ場率および平均成虫数は、県北部の普通期栽培で90%（平成73%）、16.0頭（平成7.8頭）、県中部の普通期栽培で83%（平成79%）、6.0頭（平成6.5頭）であった。

② 予察灯による8月1～20日の誘殺数は、紀の川市223頭（過去9年の平均170.0頭）、上富田町10頭（過去9年の平均12.4頭）であった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 晩生品種では、乳熟期～糊熟期に薬剤を散布する。

※ 水稻害虫の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稻害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

## II. 野菜・花き

### <ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

#### 1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、和歌山市2頭（平成0.5頭）、紀の川市0頭（平成0.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

### <野菜・花き全般>

#### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬のワタアブラムシの発生ほ場率は44%（平成13%）、生息葉率は1.4%（平成1.3%）、モモアカアブラムシの発生ほ場率は22%（平成3%）、生息葉率は0.2%（平成0.2%）であった。

② アブラムシ類の黄色水盤（紀の川市）への8月1～20日の飛来数は、31頭（平成69.4頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シルバーマルチと薬剤防除を併用してアブラムシ類の防除を行う。
- ② ハクサイ等の育苗では、防虫ネットで被覆して有翅虫の飛来を防ぐ。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬のカンザワハダニの発生ほ場率は78% (平年23%)、生息葉率は4.4% (平年5.0%)、ナミハダニの発生ほ場率は44% (平年14%)、生息葉率14.8% (平年2.2%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬の発生ほ場率は44% (平年44%)、生息葉率は10.6% (平年11.6%)であった。

- ② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬の発生ほ場率は11% (平年0%)、生息葉率は1.2% (平年0%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、紀の川市18頭 (平年35.5頭)、御坊市47頭 (平年75.7頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期 (ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき) の防除を心がける。

- ② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～50日間寒冷紗または防虫ネットで被覆すると被害が軽減される。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬の発生ほ場率は44% (平年1%)であった。

- ② フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、和歌山市204頭 (平年131.6頭)、紀の川市326頭 (平年226.3頭)、御坊市327頭 (平

- 年 161.1 頭)、印南町 33 頭 ( 平 年 77.2 頭 ) で あ っ た 。  
( 3 ) 防 除 上 考 慮 す べ き 諸 点  
① シロイチモジヨトウに準ずる。

## Ⅲ. 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 黒点病

( 1 ) 予 報 内 容 発 生 量 並

( 2 ) 予 報 の 根 拠

① 県北部 ( 海南市下津町 ) 、 県中部、 県南部 ( 田辺市 ) における 8 月下旬の発生ほ場率は 28% ( 平 年 40% ) 、 発 病 果 率 は 10.5% ( 平 年 10.6% ) で あ っ た 。

② 9 月の気象予報による。

( 3 ) 防 除 上 考 慮 す べ き 諸 点

① 8 月中下旬に防除できなかつたほ場では、 9 月上旬に早急に防除を行う。

② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

#### 2. かいよう病

( 1 ) 予 報 内 容 発 生 量 ( 果 実 お よ び 夏 秋 梢 ) 並

( 2 ) 予 報 の 根 拠

① 県北部 ( 海南市下津町 ) 、 県中部、 県南部 ( 田辺市 ) における 8 月下旬の春葉病斑の発生ほ場率は 23% ( 平 年 25% ) 、 発 病 葉 率 は 1.1% ( 平 年 0.9% ) 、 果 実 の 発 病 果 率 は 1.7% ( 平 年 2.0% ) で あ っ た 。

② 9 月の気象予報による。

( 3 ) 防 除 上 考 慮 す べ き 諸 点

① 罹病性品種の場合、付傷すると果実発病のおそれがある。台風の接近等で強風雨が予想される場合には、事前に薬剤散布を行う。

② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので、 9 月以降翌春までに剪除する。

#### 3. ミカンハダニ

( 1 ) 予 報 内 容 発 生 量 や や 多

( 2 ) 予 報 の 根 拠

① 県北部 ( 海南市下津町 ) 、 県中部、 県南部 ( 田辺市 ) における 8 月下旬の発生ほ場率は 42% ( 平 年 13% ) 、 発 生 葉 率 は 13.6% ( 平 年 2.7% ) 、 100 葉あたりの雌成虫数は 45.9 頭 ( 平 年 6.6 頭 ) で あ っ た 。

② 9 月の気象予報による。

( 3 ) 防 除 上 考 慮 す べ き 諸 点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に 2 回以上使用しない。

② ミカンサビダニの発生が認められるほ場では、ミカンハダニとミカンサビダニの両種に適用のある有効薬剤を選択する。

#### 4. チャノキイロアザミウマ

( 1 ) 予 報 内 容 発 生 量 並

( 2 ) 予 報 の 根 拠

① 県北部 ( 海南市下津町 ) 、 県中部、 県南部 ( 田辺市 ) における 8 月下旬の果実の被害ほ場率は 23% ( 平 年 21% ) 、 被 害 果 率 は 1.6% ( 平 年 2.4

%)、100果あたりの生息虫数は0頭(平成0.0頭)であった。

② 予察ほ場(無防除)における黄色粘着トラップによる8月1~20日の誘殺数は由良町276頭(平成177頭)、有田川町63頭(平成53頭)であった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 8月中旬以降に有効な殺虫剤を散布していないほ場および夏秋梢の多いほ場では、9月の発生状況をよく観察し、成幼虫の生息果率が15%以上の場合は薬剤防除を行う。

## <カ キ>

### 1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」31%(平成11%)、「刀根早生」・「平核無」0%(平成1%)であった。

② 県北部における8月中旬の発病果率は、「富有」1.0%(平成0.5%)、「刀根早生」・「平核無」0%(平成0.0%)であった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。

② 降雨が続く場合は追加防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかつた場合は台風通過後速やかに散布する。

③ 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光をはかり、薬液をかかりやすくする。

④ 令和6年度病害虫発生予察注意報第5号(令和6年7月30日発表)を参照する。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は「富有」69%(平成68%)、「刀根早生」・「平核無」6%(平成19%)であった。

② 県北部における8月中旬の発病葉率は「富有」3.1%(平成6.6%)、「刀根早生」・「平核無」0.1%(平成1.1%)であった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。

② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

### 3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」0%(平成2%)、「刀根早生」・「平核無」0%(平成3%)であった。

② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0%(平成0.0%)、「刀根早生」・「平核無」0%(平成0.1%)であった。

③ 県北部では感染時期である5月上旬から7月中旬にかけて降水量は平成並~かなり多いの間を推移した。

④ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

#### 4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」0%（平成1%）、  
「刀根早生」・「平核無」0%（平成2%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0%（平成0.0%）、  
「刀根早生」・「平核無」0%（平成0.0%）であった。
- ③ 県北部では主な感染時期である5月上旬から7月中旬にかけて降水量は  
平成並～かなり多いの間を推移した。
- ④ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を  
心がけ樹勢維持に努める。
- ② 本病は二次伝染を繰り返すので、10月上旬まで防除を励行する。

#### 5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」19%（平成63%）、  
「刀根早生」・「平核無」0%（平成20%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の寄生果率は、「富有」0.5%（平成5.7%）、  
「刀根早生」・「平核無」0%（平成0.8%）であった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかる  
ように丁寧に散布する。

### <果樹全般>

#### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬のカキの被害果率は、「富有」27.5%（平成  
4.7%）、「刀根早生」・「平核無」6.7%（平成0.4%）であった。
- ② 紀の川市粉河の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオ  
カメムシが2,095頭（前年711頭、平成581頭）、ツヤアオカメムシが  
1,244頭（前年61頭、平成231頭）、クサギカメムシが849頭（前年  
1,132頭、平成449頭）であった。
- ③ 有田川町奥の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカ  
メムシが2,241頭（前年140頭、平成522頭）、ツヤアオカメムシが397  
頭（前年122頭、平成108頭）、クサギカメムシが676頭（前年199頭、  
平成185頭）であった。
- ④ みなべ町東本庄の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネア  
オカメムシが1,837頭（前年2,373頭、平成1,221頭）、ツヤアオカメム  
シが890頭（前年697頭、平成488頭）、クサギカメムシが144頭（前年  
982頭、平成404頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来時期・量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場  
では被害が出やすい傾向がある。
- ② ほ場内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発

生に応じて早めに行う。

- ③ カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。
- ④ 台風通過後や強風後に一時的に飛来が多くなることがあるので、ほ場内での発生に注意する。
- ⑤ 今後の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。
- ⑥ 令和6年度病虫害発生予察注意報第4号（令和6年7月12日発表）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780